13　木更津港のうつりかわり【1】～明治から昭和初期～

木更津港の概要

木更津港は東京湾の東岸の南部に位置し、古くから物資の集散港として栄えてきました。
工業港として機能を高めるため、工業用地等の造成、外内貿ふ頭の整備が逐次進められ、昭和43年4月に重要港湾の指定を受け、横浜港・川崎港・東京港・千葉港と並んで首都圏の発展に寄与しています。

出典：庁内HPちば情報マップ

発祥

木更津港は、慶長19年（1614年）の大阪の役における勲功により、地元の回船業者が徳川氏から江戸府船町と木更津間の渡船営業権を与えられたことに始まり、江戸時代から当地方の物資集散港として繁栄していました。

水運から鉄道へ

明治12年（1879年）には、木更津、東京、横浜間に定期船が就航し、明治41年（1908年）には、木更津町は工費70,000円を投じ航路の浚渫と防波堤の築造を行い、明治45年（1912年）に完成しました。
しかし、大正に入り蘇我・木更津間に鉄道が開通したため、海運は次第に衰退し、さらに大正6年（1917年）に関東一帯を襲った台風により港は壊滅、定期船も廃止となりました。

木更津港内港の成立

その後、大正15年（1926年）に内務省告示により公有水面埋立法に基づく指定港となり、港としての本格的な改修は昭和７年から始められました。昭和9年に港の北側に日本海軍部隊の一つである木更津海軍航空隊の飛行場が建設されるに伴い港湾工事も大型化し、昭和12年には、航路、泊地、防波堤、護岸が完成し、ほぼ現在の木更津港内港（吾妻地区）の形態を整えました。

「千葉縣木更津町鳥瞰」
松井天山（昭和四年一月写生）

提供：木更津市郷土博物館金のすず

◇木更津内港

左図は、木更津内港（現在の木更津港吾妻地区）の鳥瞰図です。

図中央上よりに木更津駅があり、港に向かって街並みが広がっている様子が確認できます。

図の中央下には、海の中に鳥居が確認でき、この周辺が遠浅であることがわかります。

かつて、港の整備が進む前は、船は沖合で停泊し、
“はしけが渚との間を連絡し、干潮時には「海中人力車」が干潟を走って客の送迎する光景も見られた”（「千葉県史（明治編）」）との記述もあります。

また、しかけが設置されている様子から漁業が盛んであったことが伺えます。